

新年を迎えて

小池にて産湯につかった私もいつの間にか85歳。平成28年、お屠蘇の乾杯を迎えたわけです。

新年に当たって、年配の私が気がついたご注意の一言を申し上げます。

久しぶりに家族皆が揃って、楽しいお正月のお祝い膳を囲んでの団らんのひと時、いつもはゆっくりとした物腰で穏やかなお年寄りが、皆さんが揃うため張り切ってお話も弾み、お餅を口にしたりして…。そうですね、好事魔多し。気を付けないといけません、お餅の事故です。



診療所の先生のお話によりますと、気管にお餅が入る事故は毎年お正月に数十件起きているそうです。これが、普通の誤飲（誤って食べ物を食道ではなく気管に入れてしまう事故）と違ってお餅の場合は気管に着いてしまうのが厄介だそうです。

又口の中に手を入れてお餅の一部をつかまえてやれ良かったと引っぱり出したとしても、これが伸びてしまってなかなか全部取れないことです。特に声帯に着いた場合、声も出ない狭くて空気が入らない。お年寄りですと激しい咳払いもままなりません。

予防するためには、お年寄りにはお餅を小さく切って食べて貰う様にします。

食事はゆっくりと良く噛んでする心がけをつけましょう。

(小池・山下雅己)

春を待つ

ここ東雪谷に住んで、はや20年となりました。私も子ども達の成長とともにさまざまな活動をしてきましたが、現在は石川台中学校のスクールサポートの一員として活動しています。この秋、石川台中学校の一角に花壇を造り始めました。それも東京都緑化基金『東京を緑でいっぱい！』の事業が援助してくれたお陰で、少しずつ花壇らしくなってきました。全てがボランティアの皆様のお力なくして、成し得ない活動です。花を通して見知らぬ方ともコミュニケーションがとれますので、益々ボランティアの方が増えるといいなと思っています。

私はマンション暮らしなので花壇には縁がありませんでしたが、花や風景を楽しむ余裕ができるといいですね。バーチャルなものがあふれている時代だからこそ、リアルでホッとできる空間があれば、大人も子どもも心豊かに生活できると思います。街がきれいになることは防犯にもつながることでしょう。もともと呑川と桜並木と緑の多い素敵な場所です。春の桜の時期には、花壇の花たちも同時に満開になることを心待ちにしています。

(雪谷石川台・長谷川由美子)

老いも若きも楽しめる情報紙として

「ふれあい雪谷」100号記念特別号をお届け頂き、編集委員の皆様のご苦勞を思い、懐かしさとスマートな紙面に感慨無量です。

25年前当時の自治会長山上徳雄さんから編集委員を依頼されました。地域情報紙と言っても見本になる物もなく、初めての編集会議は時間ばかり費やし、中身決めは遅々として進みませんでした。先ず題字は誰に頼むか？私は筆字の素晴らしい方に定評のあった山上会長を即推薦したと記憶しています。

以来25年の間に地域の懐かしい方々が他界されました。ブルースの女王淡谷のり子さん、戦前の美しい洗足池の風景を常々口にしておられました。コメディアンのエノケンさんやNHKの顔、藤倉修一アナウンサーも居られました。私は戦後間もない昭和21年から住み、地面に突きささった儘の焼夷弾、熱で溶けたガラス、焼けたトタン等、焼跡もまだまだ片付いていませんでした。今改めて周りを見れば新しい家、若い家族も多く、若い人々のこの街への期待や感想も知りたいです。



老いも若きも楽しめる、新鮮なネタ満載の情報紙として、次の200号に向かって続いてくれることを心から期待しています。25年後、その時私は100歳か。

(池の台・野邊晴子)

コミュニティ助成事業による備品購入のご報告

宝くじの社会貢献広報事業として、宝くじの受託事業収入を財源としてコミュニティ助成事業が実施されています。雪谷地区自治会連合会ではこの助成事業により、リヤカーや音響設備、発電機等の備品を購入させていただきました。これまで以上に各自治会が連携し、雪谷地区のコミュニティを活性化するためのお祭りやイベント等で活用していきたいと思っています。

編集後記

新年おめでとうございます。ふれあい雪谷も101号となり新しい世紀を踏み出しました。

年の始めと云うのは、どうしても過去を顧み、新しい未来に思いをはせるものです。小池の山下さんもそんな思いもあって、寄せられた原稿でしょうか。

編集委員は皆、何か楽しい企画はないかと、いつも探している状態です。皆様の新しい案、珍しい話等ございましたら、お寄せいただきたいと思います。

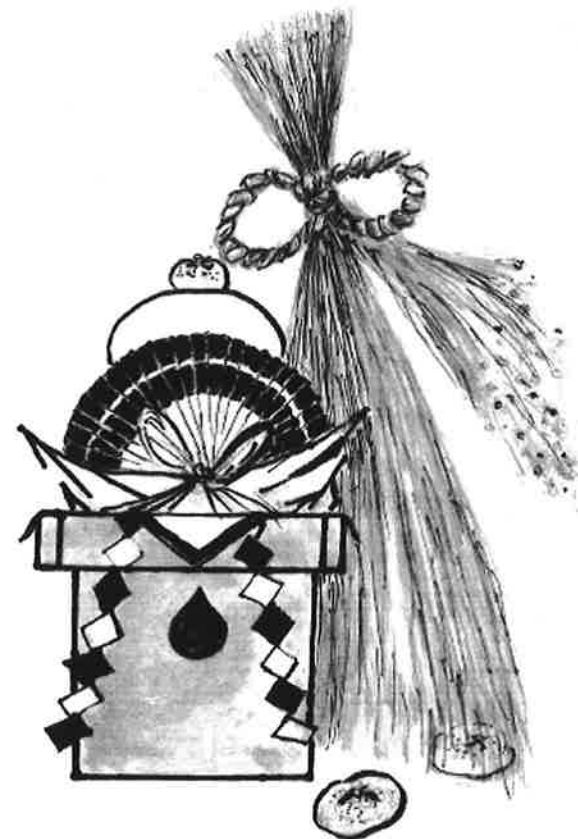
(笹丸・森信節子)

ふれあい雪谷(創刊 平成2年(1990)12月20日) 年4回発行
(1月 新年号/4月 さくら号/7月 あさがお号/10月 もみじ号/の1日発行)
[発行日] 平成28年(2016年) 新年号 1月1日(通巻 第101号) 発行
[発行] 地域力推進雪谷地区委員会 [編集] 「ふれあい雪谷」編集委員会
[連絡先] 雪谷特別出張所
〒145-0065 大田区東雪谷3-6-2 電話3729-5117 FAX3729-1826

http://www.city.ota.tokyo.jp/chofu/ts_yukigaya/index.html

ふれあい雪谷

平成28年 1月 新年号 通巻第101号



新潟地方のお飾りです

東雪・坂田道夫さんの作品

地域活動について～年初に想う～

仲池上に住むまではいわゆる転勤族でした。昔は父親の単身赴任のようなことは一般的ではなく、辞令が出ると、自動的に家族全員で引っ越すのが一般的でした。私は、父親の仕事の都合で、幼稚園から高校までは、入ったところと、卒業したところが全て異なっています。さらに、家内も転勤族、私の長女も、ここに引っ越してくるまで幼稚園を3回変わりました。一緒に引っ越して来た私の母も、数えきれないくらい引っ越しを経験した転勤族一家です。

実は、子どもの頃から故郷や地元がある友達が羨ましくて仕方ありませんでした。子どもの頃は、引っ越して、その地方の方言をマスターし、馴染むとまた転校の連続でした。大人になって地域との関わりも言葉ではわかっている、自分では参加することができず、何とかしたいと思っていました。

それが、ご縁があってここに住むようになり13年経ちました。都心の勤務先からマンションを探していたとき、ここに住む決め手になったのは、たまたま見に来たとき掲示してあった子安八幡神社の例大祭のポスターでした。こういうポスターが掲示してあるところは、地元がしっかりしたいいわゆる良い地域であることは経験上わかっていました。実際に住んで、やはり思った通りこれまで住んだどこよりも素晴らしい地域でした。

これを機会に、夢だった地域活動に参加させていただくようになりました。仕事の都合で責任の重いものはお引き受けできませんが、自治会や、青少対、消防団、PTA、お祭りなどのお手伝いをする中で、色々な人と知り合いになれば、自分の視野が広がり、楽しくて仕方ありません。

今、私の住む仲池上は、工場や倉庫がマンションに建て替えられ、人口が増加し、急激な変貌を遂げています。これまでの良き伝統を残し、新しくここにすむようになった人と一緒に、積極的に地域を盛り上げたいと思います。最近、個人主義の人も多いようですが、中には一緒に地域を盛り上げたいと思っている人がたくさんいるはず。そのような仲間を探し出し、少しずつでも地域活動の良さを知っていただき、一緒に活動したいと思っています。

ひとつだけ困ったことがあります。地元 荏原病院生まれの家族で唯一転勤族でない次女から以前、「一回くらい引っ越してみたい」と言われてしまいました。こちらが勝手に盛り上がっている、なかなかうまくいかないものです。

(上池上・大濱英郎)

スポーツ都市宣言記念事業第32回大田区民スポーツまつり 雪谷地区9自治会スポーツまつりのご報告

平成27年10月18日(日)池雪小学校にて今年も雪谷地区9自治会スポーツまつりが開催されました。今年のスポーツまつりは、2年ぶりに晴天の中での開催となり、小さいお子さんから年配の方まで、1,000名を超える方に参加して頂き、自治会対抗として今年も盛り上がりました!!
優勝:南雪谷自治会 準優勝:東雪谷東中自治会 第3位:上池上自治会
参加・ご協力ありがとうございました!!

ジュニアコンクール東京都大会に挑戦した子ども達



(2015年11月、保護者撮影)

取材後記

200号への一歩太鼓・新年号。横山さんのモットーは、「太鼓の練習を通して幼・小・中・高メンバー全員の成長に役に立てることを願っています」と。その気迫に感動しました。未来っ子の皆さん頑張ってください。

(希望ヶ丘・木村憲一)

この人紹介

東雪谷1丁目にお住まいの鎌田徳之さんにインタビューしました。



聞き手 毎朝ゴミ拾いを5年も続けられているそうでご苦労様です。

鎌田 自分の健康のためでもありますので、たいしたことをやっているとは思っていません。

——— そもそもゴミ拾いは何がきっかけで始められたのですか?

鎌田 ウォーキングが体に良いということで近所を歩くことにしました。洗足流れ沿いを歩くうちに「たばこ」の吸いながら目につき、たばこの吸いながらも拾いながら歩くことになりました。

——— ゴミ拾いのエリアは?

鎌田 在職中、洗足流れ沿いを洗足池駅まで通勤路にし、気持ちよく通わせてもらいました。それに対する感謝の意を込めて、それと、地域の大切な施設である荏原病院と東中公園をエリアに、ゴミ拾いをしています。

——— ゴミ拾いを続けるの感想は?

鎌田 ゴミを拾って道がきれいになると、自分の心も掃除される様で、とても気持ちの良い一日になります。

淡々とゴミ拾いを続ける鎌田さん素敵ですね。

(聞き手 編集委員 南雪谷・立麻裕穂)

「ゆきがや太鼓」の未来っ子とともに

ドンドンドン……。元気な太鼓の音が響きます。「ゆきがや太鼓」は雪谷小学校創立35周年の記念の曲として作られた「雪谷音頭」を保存・継承し29年目を迎えました。2000年に大田区太鼓連盟が発足し、以来、大田区の伝統芸能としての和太鼓の発展と青少年の健全な育成に力をそそいでいます。

会員は雪谷小学校の児童をはじめ、近隣の小学生から大人と幅広く、家族的雰囲気ながら、和気あいあいと活動しています。

現在では、オリジナルの楽曲を数多く手がけ、盆踊りをはじめとする地域行事、福祉・障害者会館、養護老人施設、文化センターまわりの参加しています。その他にも大田区の行事や2年に一度の「TAAKKOの祭典」、プロ奏者とのジョイントコンサート等、各種イベントに出演しています。

また、子ども達の技術の向上を目指し、仲間とともに目標に向かいチームで挑む、ジュニアコンクールに毎年出場しています。

太鼓を通して地域の方々とのふれあいを大切にし、応援をいただき保護者の協力の元、楽しく元気な会づくりに励んでいます。

(希望ヶ丘・「ゆきがや太鼓」代表 横山美津子)

お祭り

毎年9月の中旬に地元「雪ヶ谷八幡神社」の例大祭が執り行われます。

お囃子が町内に響き出すと胸の当たりがザワザワし始めるんですね。雪谷小学校の頃(40年以上も昔の話ですが)からあの音色が聞こえると授業中でも外ばかり見ていました。街中が華やかな空気になる事を子供ながらに感じていたのかもしれない。

そして日曜日。お祭りの華「お神輿」の巡行です。生まれ育った町内を練り歩きます。日頃お世話になっている皆々様の笑顔が見えます。神様を皆の威勢のいい掛け声と共に運び出す感慨とお神酒の効果?でしょうか、中年の体も自然と弾み、その壮観な景色に時を忘れず。

一時は担ぎ手さんが少なく難儀した時期もありましたが、今は次世代の大いなる活躍で若々しく眩しい巡行が自分の活力になっています。一年の区切りがここにあるのかもしれない。これまでの感謝とこれからへの希望でしょうか。

お神輿参加に躊躇している貴方、是非参加をおすすめ致します。「こわもて」でも優しさ満点の心暖まる仲間ばかりです。この高揚感を共に味わいたいものです。

(希望ヶ丘・マルサンストアー 石井敦)

